

もっと知りたい、健康のこと。

静岡赤十字病院広報誌

2022年・夏号

vol.363

|季|刊|発|行|

日赤News

ほっとニュース

「すずらんのしおり」を患者さんのもとへ
園児たち手作りの
「こいのぼり」をいただきました



[特集] ワクチン接種の積極的勧奨が再開

今! 考え、行動する 「子宮頸がん予防」

information

新しく着任した稲葉浩久副院長・
下山美穂看護部長を紹介します

注目の
トピックス

今号のテーマ: 子宮頸がん

ワクチン接種の積極的勧奨が再開 今! 考え、行動する 「子宮頸がん予防」

今春よりワクチン接種の積極的勧奨が再開された子宮頸がん。
ただその実態については意外なほど知られていません。
「多くの人が予防を徹底すれば排除できる病気」
「自分ごととして考えてほしい」と
当院婦人科の市川・栗原医師は口を揃えます。



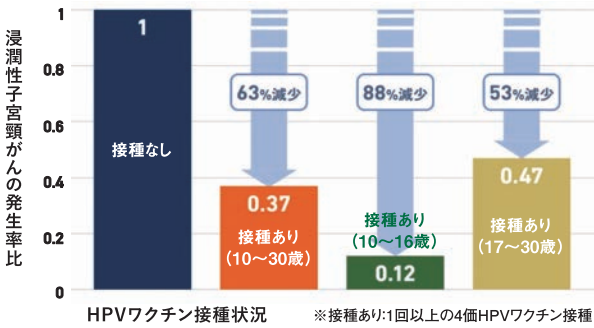
「子宮頸がんという病気にあまりなじみがない人もいるようです。どんな病気なのか。」

栗原 子宮頸部（子宮の入口部分）にできるがんのことで、発生にはHPV（ヒトパピローマウイルス）という、人間の皮膚や粘膜に感染するウイルスが関わっていることがわかっています。感染は一般に性行為により、性交経験のある人の多くが一生に一度は感染すると言われるほどありふれたウイルスです。実際感染しても多くはそのまま消滅するのですが、長期にわたり感染した状態が続くと前がん状態（がんになる前に発生する病変状態）となり、これががんへと移行します。

市川 従来40〜50代に多い病気だったのですが、近年急激に若年化。前がん病変も含めた場合、20〜39歳までの部位別がん発生率のトップは子宮頸部の腫瘍です。子宮頸がん発症は30〜34歳から増えはじめ、35〜39歳でピークに。生涯で子宮頸がんを発症する人は75人に1人、亡くなる方は312人に1人と意外と身近な病気です。

栗原 20〜30代といえば仕事も忙しく、結婚・出産を経験する方も多い年代。これから仕事を頑張りたい方、出産を望んでいる方が、病気のためにこれら

図1:4価HPVワクチン接種と浸潤性子宮頸がん発生の関係(※1)



諦めなくてはならないというのはつらいことですし、もちろん進行すれば命にも関わります。ワクチンで感染や発症のリスクを下げられることには大きなメリットがあります。

「子宮頸がんワクチンにはどれくらい予防効果があるのですか。」

市川 その説明のためには、国内で子宮頸がんワクチン接種が始まった当時の状況からお話しします。日本で子宮頸がんワクチンが承認されたのは2009年。2013年4月より定期接種が開始され、当時の接種率は70%を超えていました。しかし、その後副反応の危惧から厚生労働省は同年6月に積極的勧奨を



婦人科
市川 義一 部長

2008年当院着任。横浜出身。趣味はオートバイ、スキー。「人も穏やかで自然も楽しめる静岡は僕にとって最高の土地。これからの季節はツーリングが楽しみです」愛車は20年来乗っているアブリリア1,000cc。

臨床現場では、ワクチンを接種していた世代の子宮頸がんが明らかに少ないことを実感します

中止しています。この時点でワクチンを接種していたのは当時勸奨年齢だった1994~1999年生まれの方なのですが、臨床の現場にいると、ワクチンをしつかりと接種していた世代の子宮頸がんや前がん状態での受診が明らかに少ないことを実感します。またワクチンは前がん病変を抑えるだけでなく、命に関わる浸潤がんの発生を88%減らすことが、10~30歳の女性167万人を追跡した研究で明らかになっています(図1)。

栗原 2013年の定期接種開始後に報告されたけいれんや痛みなどの病態を心配する声も聞かれますが、その後の調査や研究によって、これらの病態とワクチンとの因果関係は明確に否定されています(※2)。副反応のリスクは他の定期接種と同程度と考えるのがよいかと思えます。

「現在勸奨年齢にある方は積極的な接種が望まれるということですね。では、接種の機会を逃してしまった世代(1997年4月2日~2006年4月1日生まれの人)は、予防のためにどうしたら良いのでしょうか。」

栗原 まずワクチンのキャッチアップ接種があります。この世代での接種でも浸潤がん発生は53%減少していますので、ワクチンは重要な選択肢。特に性経験がない方は、定期接種同等の効果も期待できます。厚生労働省では17~30歳の未接種者を対象に公費助成を行っており、総額6万円近くかかるワクチンを無料で接種できます。ただ3年間限定ですので、お住いの自治体に早めに確認することを勧めます。

市川 次に、2年に一度の定期検診の受診です。すでにHPV

「最後にそれぞれメッセージを。」

市川 今、子宮頸がん接種は世界的な動きとなっています。ワクチン接種はすでに標準的な予防策と認識されていて、接種率が8割を超えている国もあります。現状日本の接種率はわずか0.8%ですが、子宮頸がんワクチンの浸潤がん予防効果が次

に感染している場合でも、早期発見できれば適切な治療を受けることができます。各自治体では子宮頸がんの定期検診開始年齢である20歳の女性に無料で受診できるクーポンを発行していますが、若い世代の受診率は15%程度と不十分。定期検診を受診しないというのは、リスクのある状態にさらされているのだということに改めて理解してほしいです。

第に明らかにになり、ここ1~2年でワクチンを接種する方は確実に増えてきています。今回の接種勧奨再開が、より多くの方に子宮頸がん予防を考え、自分にあつた予防行動をしていただく機会になり、つらい思いをする女性やその家族が一人でも減ることを願っています。

栗原 ワクチンによる予防と定期検診の両方を行うのが理想的な選択ではありますが、接種しなくてもできない方、接種しないと決めていた方、検診対象年齢でない方もいらっしゃるかと思います。最も大切なのは、できることを先送りにせず、今できる予防行動をひとつずつ積み上げていくこと。今の自分や家族にとってどうするのが一番良いのか、悩まれる時にはいつでも産婦人科に相談して下さい。

大切なのは、今できることを先送りにせず、予防のための行動を積み上げていくこと



婦人科
栗原 みずき 副部長

2017年当院着任。学生時代の実習で出産に立ち会い「命の産まれる瞬間に感動して」婦人科医の道へ。休日はゲームやコミックを楽しむなど意外な一面も。「ゼルダの伝説」が大好き。来年発売予定の新作が楽しみでなりません

ワクチン接種の問合せ先 \ お気軽にご連絡ください /
静岡赤十字病院 産婦人科外来 054-254-4311(代)

※1 Lei J, Ploner A, Elfstrom KM, Wang J, Roth A, Fang F, et al. HPV Vaccination and the Risk of Invasive Cervical Cancer. N Engl J Med. 2020;383(14):1340-8. ※2 Suzuki S, Hosono A. No association between HPV vac



ANAグループより 「すずらんのしおり」を 患者さんのもとへ

5月26日、ANAグループ（全日本空輸株式会社）より当院に入院されている患者さんへ、爽やかなすずらんの香りがする「しおり」が届きました。これはANAグループの伝統的な企業活動のひとつとして1956年より行われているもので、毎年すずらんの季節である5月頃、日本赤十字社関連の51施設で行われています。当院における活動は、富士山静岡空港が開港した2009年から始まり、今年で14回目を迎えました。毎年恒例としていた贈呈式については、本年も新型コロナウイルス感染防止の観点から実施することはできませんでしたが、いただいた「しおり」は入院されている患者さん一人一人の手元にお届けいたしました。すずらんの清楚でさわやかな香りが回復への励みになりますように。



園児たち手作りの 「こいのぼり」をいただきました



5月5日のこどもの日にあわせて、静岡市葵区にある保育園・小百合キンダーホームさんより、手作りのこいのぼりを寄贈いただきました。実はこれは40年以上続いている恒例行事。一枚一枚のうろこがそれぞれ園児たちの作品になった手作りのこいのぼりは、「病気やケガで治療を受けている子どもたちのために」との思いが込められています。

掲示されたこいのぼりは、患者さんからも「季節感が感じられてすてき」「お子さんが一生懸命描いてくれた絵はとてもかわいい!」と好評です。小児科外来と小児科病棟で泳いでいる可愛らしい姿を、ぜひ目に留めてみてくださいね。

INFORMATION インフォメーション

新しく着任した稲葉浩久副院長・下山美穂看護部長を紹介します

ふたりのパワーで静岡赤十字病院に新しい風を吹き込みます

2022年4月より当院副院長に稲葉浩久医師、看護部長に下山美穂看護師が着任しました。表紙を飾ったおふたりにあらためてクローズアップします。

当院呼吸器外科部長として、診察に手術にと忙しい日々を送ってきた稲葉副院長。日頃の診療以外にも災害医療派遣チーム（DMAT）の隊員としても活躍、災害発生時に複数のDMATをまとめる「統括DMAT」の資格もお持ちです。誠実な人柄とあたたかな物腰は、患者さんはもちろん多くの職員から厚い信頼を得ています。

一方の下山看護部長は、これまで病棟・手術室師長を歴任してきたベテラン看護師。留学経験もあり語学も堪能、得意の英語を生かしてこれまでイラン、ハイチ、バングラデシュでの海外救護活動も経験。何事にもフットワークの軽い行動力と若々しさが周囲を惹きつけます。

ふたりのパワーで院内に新しい風を吹き込んでまいります。今後ともよろしく願いいたします。

この地域の医療の
安全と平和を守るよう
全力をつくします



稲葉浩久 副院長

好きな食べ物	魚介類
趣味	音楽、歴史、川、 清水エスパルスの応援
休日の過ごし方	散歩
当院の好きなところ	災害救護にも 力を入れているところ

赤十字の活動は地域の皆さまの
「いのちと健康を守る」ためにあります。
私たちはこれからも地域から信頼される
「赤十字病院の看護師」を目指し
Challengeしていきます



下山美穂 看護部長

好きな食べ物	夫の手料理
趣味	湯船でゆっくりまったり 心と体のStretch
休日の過ごし方	母とおしゃべり
当院の好きなところ	魅力ある仲間と Challenge精神